JB Clinic

40年の診療所が、新しい体験へ JB Clinic × CAYIN Technology: より良い待合、より良い診療

要 約

国: 台湾

業種: 医療

実装製品:

- SMP-2200 × 3
- ロバスティソリューション

はじまりは、一つの診療所と40年の約束

基隆・七堵の南興市場近く、静かな路地にあるJB Clinicは外観こそ地味です。広いロビーも、大きな看板もありません。それでも、40年以上灯りが消えることはありませんでした。

JB Clinicは「病院に行く場所」以上の存在です。基隆で初めて禁煙プログラムを立ち上げた診療所であり、ボランティア診療を通じて地域に貢献してきました。肺機能検査、眼底検査——町の診療所では珍しいサービスも、ここでは当たり前の日常です。

長い年月を経て、JB Clinicは住民に本当に信頼される、数少ない診療所の一つになりました。しかし、信頼は土台であってゴールではありません。患者数が増えるにつれ、小さな不満が表面化し始めました。自分の順番が分からない、呼び出しが聞き取りにくい、外で待つ人が進捗を把握できない——致命的ではありませんが、何十年も積み重ねてきた体験が、少しずつ削られていきました。

ポイント：　患者が診療所に持つ印象は、診察そのものより、待合室での体験によって形作られることが多いのです。

診療所の医師たちはそれを理解していました。だから決断しました——40年間守り続けてきた同じ約束を、技術で支えることに。

本当の課題：「画面を置く」だけでは足りない

デジタル化は、言葉で聞くほど簡単ではありません。地域の診療所で実際に進めると、JB Clinicには中小の医療機関に共通する課題が山積していました：

- **1画面で2診察室：**2診と3診は隣接し、1台の画面を共有。両方の待ち状況を正確に、かつ患者を混乱させずに表示するには？
- **非ITのスタッフ：**診療所のスタッフは医療のプロであり、ITエンジニアではありません。技術研修なしで運用できるシステムが求められました。
- **ダウンは許されない：**待合室での不具合や遅延は、その場で混乱と不信を招きます。

こうしたニーズに応えるため、JB　Clinicは3社のパートナーでチームを組みました——それぞれが欠かせない専門性を持って。

三人の専門家、一つのシームレスなシステム

このプロジェクトを成功させたのは、特定の技術ではありません。製品を売るのではなく、課題を解決する——三人のスペシャリストが一丸となって動いた精度です。

• CAYIN Technology — 中核エンジン：

CAYINは、システムのハードウェア基盤として産業用デジタルサイネージプレーヤーSMP-2200を3台納入。CAYINの安定性への評価はキャッチコピーではなく、病院・小売・官公庁など厳しい環境での長年の実績の結果です。

管理インターフェースも同様に重要です。直感的な操作で、診療体制の変更に合わせてスタッフがその場でコンテンツを調整でき、ITサポートは不要です。

• Pao-An Technology — ニーズの翻訳者：

Pao-An Technologyは、プロジェクトで最も重要でありながら見過ごされがちな役割を担いました：システムインテグレーター。既製品の構成を当てはめるのではなく、チームは診療所を訪れ、医師と向き合い、現場の診療フローを実行可能な技術仕様に「翻訳」しました。JB Clinicの診療体制が頻繁に変わることを踏まえ、複数の「シーン切替」シナリオを事前設定——診察室の組み合わせに応じて、自動または手動でシステムが適応できるようにしました。システムに「息」を通したのは、この設計です。

• PilotTV Media — 呼び出しシステムの設計者：

PilotTV Mediaは、コアとなる呼び出し管理システムの開発と統合を担当。CAYINのプレーヤーと深く連携することで、1対1・多対1の表示構成に対応——診療所が診察室の運用をどう変えても、呼び出し情報は常に正しい画面に、正しいタイミングで表示されます。

ソリューションの中身：SMP-2200が解決する実際の診療課題

ここで触れる技術的なポイントは、理解する価値があります——JB Clinicで解決した課題は、多くの診療所が日々直面している問題だからです。

動的診察室マッピング｜スマートレイアウト、手動切替不要：

2診察室で1画面を共有するのは一見妥協のように聞こえます。CAYINのシステムはそれを強みに変えます。どの診察室が稼働しているかに応じて、表示が自動で切り替わります：

- **2診のみ稼働：**画面全体で2診の待ち状況を表示——すっきり、分かりやすく。
- **2診・3診とも稼働：**画面が自動で分割され、両方の待ち状況を並べて表示。
- **診療中の体制変更：**スタッフはビジュアル画面からレイアウトを即座に切替可能——技術知識は不要です。

低遅延ワイヤレス伝送｜呼ばれたら、すぐ表示：

呼び出しシステムで最も厄介なのは遅延です。58番を呼んでいるのに画面がまだ55番のままでは、待合室がざわつきます。

SMP-2200は低遅延のワイヤレス伝送により、画面更新と音声案内をほぼ同期。院内のどこにいても、あるいは外で待っていても、患者は常に最新の状況を確認できます。

健康教育の統合｜待ち時間を価値に：

画面は番号表示だけではありません。システムは同時に以下を配信します：

- 診療所スタッフが直接アップロードする健康教育動画（編集権はすべて診療所側、ベンダー依存なし）
- 診療所からのお知らせを流すリアルタイムのティッカー
- 地域の天気情報（ライブ）

待合室は、患者がじっとしている数少ない時間です。動画による健康情報は、壁のポスターよりはるかに届きやすく——診療の流れを妨げることもありません。

Copyright © CAYIN Technology Co., Ltd. All rights reserved.

屋外まで拡大： 表示は診療所外の案内窓にも及び、外で待つ患者も待ち状況をはっきり把握できます——受付への問い合わせが減り、スタッフの負担も軽減されます。

結果：数字の裏にある、本当の変化

2026年1月31日。システム稼働。

JB Clinicからの評価は、三つの言葉に集約されました：シンプル、安定、満足。

その背景には、診療所の運営における具体的な変化があります：

- **患者の不安軽減：** スタッフに聞かなくても自分の順番が分かり、待合室はより落ち着き、整った雰囲気に。
- **スタッフ負荷の軽減：**レイアウトの自動切替と案内により、受付スタッフは本当に大切な業務に集中できます。
- **プロフェッショナルなイメージ向上：**モダンでシームレスなデジタル体験が、この診療所が前進し続けていることを、静かに患者に伝えます。
- **健康教育の届く範囲拡大：**待ち時間中も教育コンテンツが流れ続け、診療の流れを妨げずに、自然な形で健康知識を届けます。

このシステムの価値は、技術的な課題を解決したことだけではありません。40年の歴史を持つ診療所に、地域への同じ約束を、より現代的で丁寧な形で果たし続ける手段を提供したことです。

診療所の管理者が得られる示唆

JB Clinicの事例は、デジタル化を検討する医療機関に、明確な指針を示しています：

- **技術より課題から始める。**JB Clinicがこのシステムを導入したのは、デジタル化がトレンドだったからではありません。患者体験という現実の課題を解決する必要があったからです。
- **売り込みより耳を傾けるパートナーを選ぶ。**Pao-An Technologyの現地ヒアリングが、このプロジェクトを一般的な導入と一線を画しました。
- **機能より安定性を優先する。**診療所にとって、止まらないシステムは、あらゆる機能がついたシステムより重要です。
- **待ち時間を活かす。**画面は単なる呼び出し板ではありません——待合室に座る一人ひとりの患者と、伝え、教え、信頼を築くチャネルです。

CAYIN Technologyについて

こCAYIN Technologyは産業用デジタルサイネージソリューションを手がけています——メディアプレーヤー、コンテンツ管理サーバー、高度な管理ソフトウェアを含み、医療・小売・教育・官公庁など世界中で実績があります。CAYINは、「確実に動くシステム」を求める組織に選ばれています。

JB Clinicのプロジェクトは、その基準を示す一例です：産業級の信頼性を、扉をくぐる一人ひとりの患者のために。

診療所の待合体験を変えませんか？

CAYIN Technologyと認定パートナーまでお問い合わせください。貴院に最適なデジタルサイネージと待合・呼び出し管理のソリューションをご提案します。

CAYIN Technology Co., Ltd.
3F, No.57, Sec. 3, Zhongshan N. Rd., Zhongshan Dist., Taipei City 104027, Taiwan
TEL：+886-2-25951005　FAX: +886-2-25951050
sales@cayintech.com　https://www.cayintech.com/jp/

Copyright © CAYIN Technology Co., Ltd. All rights reserved.